

村の世帯・人口

昭和49年10末日現在

総世帯数 2,622戸

人 口 11,829人

男 5,982人

女 5,847人

10月の人口移動

出生 30 死亡 3

転入107 転出 48

婚姻 10 離婚 0



広報にはら

発行所

西原村役場

電話 (098995) 5011

5013・5012

印刷所

桑江印刷所

電話 (098995) 2365

一、村政情報

一、村議会終る……………1

一、平和への誓いをこめて……………1

一、火遊びはいけません……………2

一、地域行政の問題にすばやくメスを……………3

一、優秀な納税率……………3

二、村民の広場

一、勝ち取ろう食えるキビ価格を……………4

一、秋を色どる美食の山……………5

一、いよいよ本村にも高校が……………5

一、青少年健全育成のため……………6

ゴルフトーナメント……………6

一、あっぱれ三連勝の内間チーム……………6

一、秋空に舞う……………7

一、黒石市青年団との交流をおえて……………8

三、告知板

一、予防接種への案内……………9

生活の一部にしょう火の点検

村議会終る

去る十月二十日、午前十時から第八回議会臨時会が開かれた。

新議員による初の議案審議とあってピリッと緊張したムードが議場にたどった。

その日出的議案は全部で四件で、審議の結果、すべて原案通り可決された。

とくに一般会計補正予算の議案では十月二十八日、東京で開かれる一千名によるキビ代値上陳情団に、本村からも代表二十五名が参加する予定であり、それに参加する代表者に一日当り一千円、その九日分、九千円を報償金として出すことが審議決定された。

村民あるいは県民を代表する本村の二十五名の農家代表の東京での活躍が期待されます。

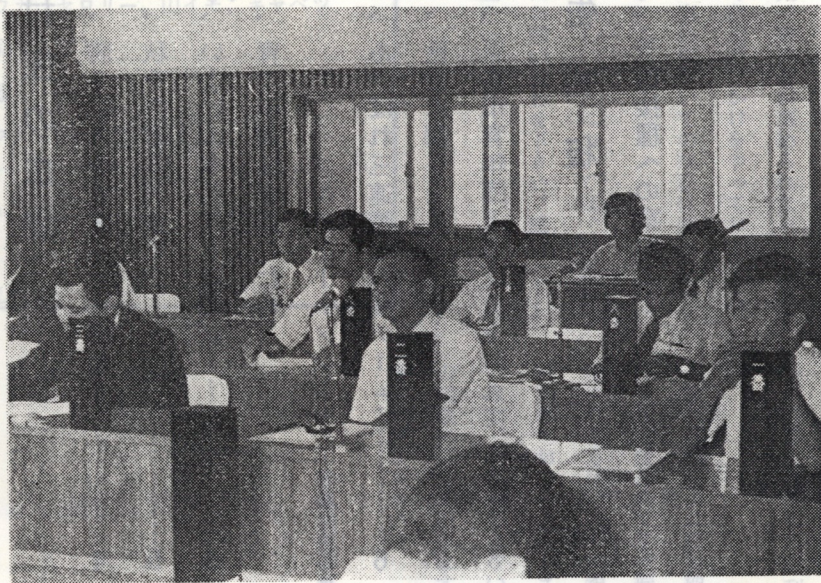
議案の審議状況

議案第一号：西原村国民健康保険
税条例の一部改正に
ついて：原案可決

議案第二号：西原村国民健康保険
条例の一部改正につ
いて：原案可決

議案第三号：昭和四九年度西原村

国民健康保険特別会
計補正予算について
：原案可決



より議会

平和への誓いをこめて

村慰霊祭行なわれる

いまわしい戦禍から、もう二十九
年余。

緑の少なから、まだまだ沖繩の
激戦のツメ跡、尊い生命の鮮烈なる
血の印象は消えない。

三〇年近い戦後の日々が、あの忘
れてはならない太平洋戦争の生々し
い体験と教訓を遠い過去へ押しやっ

たのでは…と懸念される今日このこ
ろ…。

決して犠牲となった父母、兄弟
や友の生命の尊さを忘れてはいけな
い。そしてその重さから生きながら
えた私たちの成すべきことは…：そ
う平和の祈願であり、平和の努力、
これでしょう。

村が毎年、去る大戦の時本村で失
った尊い生命の霊の前で平和の誓を
新たにする村慰霊祭。今年も去る十
月二十五日、午後二時から清掃で、
きれいに清められた西原の塔で行な
われた。

慰霊祭には村の遺族の方々をはじめ
め村当局、村議会、その他村の有志
方々が多数参列、しめやかに取り行
なわれた。

とりわけ参列者の目を引いたの
は、わざわざ今日の日のために、北
海道から、八十二才の高令をおして
列席した羽生きぬえさんと息子の博

氏の姿だった。

羽生さんもいける戦争の沖繩戦、とりわけ激戦地といわれる本村で息子さんの羽生幸市さんを失い、一度は現地、西原の地に足を運ぶお考えだったとか。

その念願がかない、西原の塔で静に眠る息子さんの前に静かに合掌する羽生さんの心中……。本当に感慨無量の様子で過去の戦禍の深さと重さが一瞬参列者の頭をよぎった。

羽生さんは、息子さんの霊前で合掌できたことで「もう安心」と永年の胸のつかえがおりたと、さも満足な様子だった。

現地訪問の想いが相当に強かった羽生さんは去る八月に沖縄の知人にわざわざ依頼し、ささやかな慰霊の式を取り行なっている。

戦争の悲惨さ、言葉で表現しがた、その戦禍の重さ、またしかり。

村民、みんなで羽生さんの息子さんを初めとする多くの英霊に、平和の誓いを新たに、深く静かに合掌。

慰霊祭はすべての参列者の焼香で午後四時すぎに終った。

火遊びはいけません

にしはら保育所防火訓練

年の瀬は火災のシーズン。

大人、子供、みんなで火の始末には気をつけないといけません。

西原村消防団では園児たちの火災への関心と注意を呼びおこし、同時に退避の訓練をもかねて、去る十月三十一日、午前十時四十五分から防火訓練を村立にしはら保育所で行ないました。

同日午前十時四十五分ごろ、給食室での火の不始末から火災発生。

いそいで村役場に火災発生の知らせの電話。

電話を受け取った職員が消防へ急報。

急報を受けた消防は、すばやく出

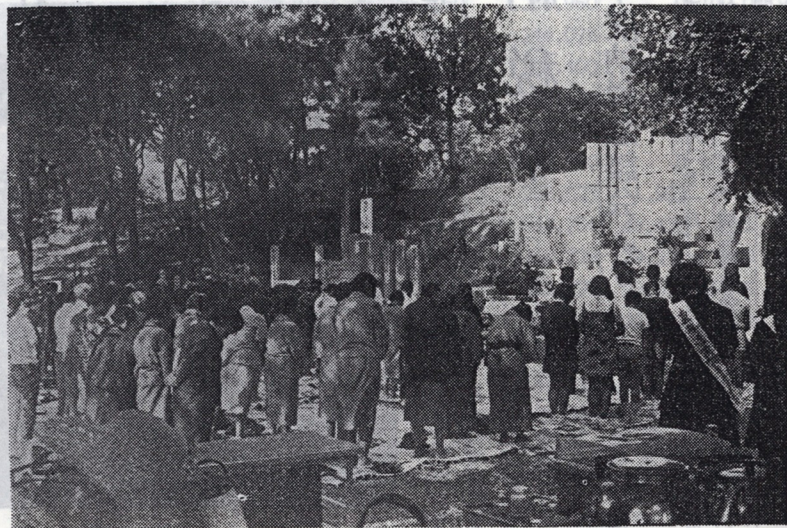
動。

急報から五分後には現場到着。すぐ消火作業に取りかかり、無事消火完了。

丁度、訓練開始ころから雨が降り出し、そのため、二、三分の時間のロスがあったとは棚原団員の弁。

園児たちは、昨年に次いで訓練で、なれてきた感じ。それでも、はだして、小雨の中を園舎から連れ出されたことは日ごろとはだいぶ違うこと。だから目をパッチリさせいささかビックリという表情

訓練の最後は、みんなひまわり組の教室に集って、消防団員から、その日の防火訓練のお話を聞いた。



永道に平和を……



すばやく消火

説明に立った棚原団員と大城団員は、日ごろと違ったやさしい言葉で話すのに一苦労。

「このことばかりですか？」と話しは前に行ったり後へもどったり、園児たちが笑い、大人の消防団員が四苦八苦。

それでも、おさない園児たちにも火災の恐ろしさはわかった様子。「マッチで火あそびした人はいませんか」の先生の言葉に「大人が、大

人がするんだよ」と暗に大人に過失が多いことへの判批？ 全く大人も、子供も、火の始末には気をつけましよう。

地域行政の問題に

すばやくメスを

Ⅱ 行政相談終る Ⅱ

十月十三日から十九日は、行政管理庁の「苦情なくして明るい生活」をテーマにした行政相談週間。

その期間中にあたる、十月十七日午前十時から午後四時にかけて、本村でも、村役場ホールで初めての行政相談が開かれた。

その日は相談を受ける側として、行政管理庁から二人の職員が来村。それに本村行政相談員の 新垣 正義（前助役）氏と村役場から大城助役 翁長企画課長が出席して種々の行政相談を受けられた。

その日相談に来た村民は、十余名で、それぞれの地域で日ごろ感じ、あるいは見受けられる行政的な問題についての質問がなされた。

相談の内容を列記すると①税金についての相談（譲渡所得の場合）②土地を買換した場合の問題。④養豚公害の訴え⑤生活障害となっている電柱の移転について⑥恩給、年給資格があるかどうかについて⑦県道三

十八号線による道路潰地補償の早期実現について⑦旧飛行場跡の排水改修について⑧西原地先の護岸の排水

溝拡大について⑨西原村の下水道計画の推進はどうなっているか⑩子供たちの健康管理の施設整備の観点から歯科医院の欠如の問題⑪無地番が勝手に利用されているが、利用権と管理権の問題について⑫村道に認定されている個人有地の利用権について⑬エッソ・パイプラインの撤去について、等々の質問が出た。

質問については即答できるものはその場でアドバイスなりの処理を行ない、予算処置等が伴うものとか主管の違うものについては行政管理庁から関係機関に問い合わせをして早目に回答することになっている。行政相談週間にちなんでも初めて本



行政相談の コマ

村でも行なわれたこの企画、仲々好評で、今後、広く村民の行政参加へのかけ橋になるものと期待されます。

本村の行政相談員は、前助役の新垣正義氏（住所：西原村宇与那城三一二番地）です。行政に関する問題がありましたら、すぐ新垣氏に相談を持ちかけるようにしましう。

優秀な納税率

昭和四十九年度納税懇談会より

「納税なくして、村政なし」あるいは「納税なくして、自治はなし」といえる私たちの村政にとって重要な納税：

ところで今年度の納税実績がまと

まり、去る十月二十一日、午後四時から村役場ホールで、納税懇談会が開かれました。

懇談会には村税の徴収で例年大きな力となっている各字事務担任者、

及び宮平村長をはじめとする関係役場職員が参加し、にぎわいました。この催しは、徴税協力者の労をねぎらうと同時に、なお、いっそうの納税思想の普及徹底を計ることにあります。

徴税の実績詳細は別表の通りです。今後とも私たちの権利を保障する納税については、積極的、早目に納付するようつとめましよう。

昭和48年度村税総合字別徴収成績表

字 名	調 定 額	収入済額	未収額	徴収率	前年度 徴収率
幸 地	879,520	876,090	3,430	99.6	99.7
棚 原	564,350	515,915	48,435	91.4	100.0
徳 佐	216,010	216,010	0	100.0	100.0
森 川	133,970	130,900	3,070	97.7	100.0
千 原	34,320	34,320	0	100.0	100.0
上 原	278,100	265,385	12,715	95.4	96.7
翁 長	861,840	804,390	57,450	93.3	97.3
呉 屋	198,810	198,810	0	100.0	100.0
津 波	403,820	403,820	0	100.0	100.0
小 川	256,950	256,950	0	100.0	99.3
内 間	261,590	244,078	17,512	93.3	99.1
掛 保	132,100	128,400	3,700	97.2	100.0
嘉 手	269,960	264,650	5,310	98.0	95.8
崎 原	250,950	250,950	0	100.0	100.0
仲 伊	342,450	342,450	0	100.0	99.0
伊 保	264,990	263,023	1,952	99.3	100.0
小 那	992,190	943,754	48,436	95.1	96.2
兼 久	889,950	710,729	179,221	79.9	79.2
与 那	282,670	258,995	23,675	91.6	98.7
我 城	1,239,260	1,216,843	22,412	93.2	94.2
安 謝	149,180	149,180	0	100.0	100.0
桃 室	147,350	147,350	0	100.0	100.0
池 原	195,310	192,540	2,770	93.6	100.0
小 波	631,240	612,940	18,300	97.1	100.0
そ の	556,000	442,468	113,532	79.6	78.7
村 計	10,432,890	9,870,960	561,930	94.6	96.4
村 外	918,060	782,860	135,200	85.3	80.9
法 計	116,331,358	116,331,358	0	100.0	99.8
総 計	127,682,308	126,985,178	697,130	99.5	99.4

村民の広場

勝ち取ろう食える

キビ価格を！

本村から二十五名参加

今期も製糖シーズンを目前にひかえ、十一月二十日の農林省、キビ生産者価格の告示に向けて、食えるキビ価格をよこせの要求斗争が一万余名の農家代表によって行なわれる。

その生産農家を中心に構成された一千名の代表団が、去る十月二八日午後三時、那覇出航の新さくら丸で上京した。

出発に先だち午前十時から与儀公園で結団式が行われ、異常な物価高騰の中で危機にひんしているキビ作農家の困窮を自らの力で打破して行く決意がうちかためられた。

同陳情団には、本村も二十五名の農家代表を送り、去る十月二十三日の臨時議会では、代表団一人当り、九千円の報償金を承認した。

陳情団は、食えるキビ価格を合

とばに最低生産者価格トン当たり一万八千円以上を要求して政府に農民の声をぶつける。

一行の行動日程は、十月三十日、東京入りと同時に、九段会館で「キビ要求価格貫徹沖縄県民大会」を開き要求貫徹まで闘い抜く決意を確認する。

そして十一月二日までの東京滞在中、農林省、大蔵省、沖縄開発庁など関係各省に連日陳情を行なう予定。

この要求斗争は、今年も鹿児島県との共闘で行われ、キビ価格の設定に当っては、①農業従事者と他産業との所得格差の是正②米価並みの所得補償方式の採用③農家経営立て直しの大幅な価格引き上げ等を政府に働きかけることになっている。

私達の農業が希望のもてるものにするため、最低トン当り一万八千円

を勝ち取るまで代表団とともに要求貫徹まで闘い抜こう。

本村からの代表団員は次に上げる二五名の方々です。(敬称略)

与那嶺英弘(幸地)、伊波盛秀(棚原)、佐久田朝得(徳佐田)、棚原朝三(森川)、普天間朝光(千原)石川信秀(千原)喜名信徳(上原)糸数太郎(翁長)、小川良夫(呉屋)、与儀清徳(津花波)、大城為義(小橋川)、玉城盛徳(小波津)新川登吉(小那覇)、呉屋太郎(与那城)平良盛仁(我謝)、城間源市(与那城)平良繁隆(我謝)、喜屋武有栄(安里)、宮平盛光(池田)小波津善一(小波津)、城間光雄(我謝)、呉屋盛光(小波津)、宮平盛栄(幸地)、泉川寛信(兼久)安谷屋昌夫(桃原)



キビ産業の今日を守るために

秋を色どる美食の山

第二回料理展示会終る

食欲の秋といわれる、天高く人こゆる今日のごころ。

昨年注目をあびた第一回の料理展示会に続いて、去る十月二十六日第二回目の展示会が多数の出品を得て、午後一時から村役場ホールで開かれました。

この料理展示会は、村普及事業連絡協議会（宇久田朝秀会長）の主催で開かれたもので、各家庭、あるいは各字で日頃研究、工夫した料理の成果を発表し、会員が相互に豊かな経済的な食生活の改善の一助にすることがネライ。

展示会場に、誇りあげた陳列された美食の数々は、五十点余におよび参観者は口の生理現象をおさえるのに一苦労。とにかく、おなかに言わすれば見るどころの騒ぎではない。それ程、内容的にすばらしいので、各字生改グループの地道な活動の成果がうかがえた。

四時からは参観者もまじえて、楽しい、楽しい試食会にうつり、今まで、おさえに、おさえられていた口や腹の欲求は充分に、うるおいが与えられさも満足そう。

見てビックリ。食べてなおビックリやっぱり、スゴイ美食でした。と



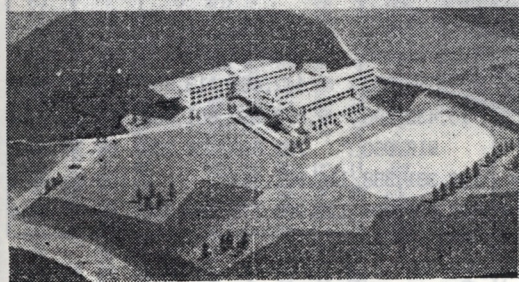
は並みいる参観者の声、又、声。今回の展示会の成果が各字に持ちかえられて後の、今後が大いに楽しみ。
西原の食生活の水準も、ホラもうこんなに高い所に来ているのですよ……。

おいしそうだと、チョットおあじを

いよいよ本村にも— —高校が！

去る十月十四日、午後三時から村民待望の県立西原高等学校の地鎮祭が敷地坂田小学校西側（宇翁長在）で挙行されました。
式典には県教育庁の関係者、それに建設工事を担当する丸平組等、高橋建設、東洋建設、外四社の代表者、及び地元の本村からは宮平村長外、地主、地域住民、等五十余名が列席し無事終えました。
西原高校は来年から開校の予定であり、当初の建設規模は、敷地総面一万一千坪に、三つの校舎が建設予定で、四月に向けて急ピッチの工事が始められた。

西原高等学校完成予想図



西原高校完成予想図

青少年健全育成のため

ゴルフ トーナメント

した。

その日は九番ホール近くで、冷た

い飲み物のサービス、十八番ホールのワンオン賞をかけてのトライといろいろな趣向をこらし、トーナメントを、いっそう楽しいものへと配慮され参加者から喜ばれました。

村役場、村教育委員会及び村体育協会の申し出によって、沖繩カントリークラブ、那覇中央ライオンズクラブの協力を受け、去る十月十六日十七日の二日間にわたって、青少年健全育成資金調達第一回、ゴルフトーナメントが、運玉森をめぐる沖繩カントリーゴルフコース十八ホール、パー六七で行なわれました。

推進者となった小川教育長は、地元にある沖繩カントリークラブ及び那覇中央ライオンズクラブの心からの協力があって初めて可能な行事：と感謝の念を強調された。

青少年教育が、あらゆる機会、あらゆる分的で、その必要性、活発性が要求されている今日、その活動の資金獲得として、今回チャリティー・ゴルフトーナメントが行なわれたことの意義は大きい。

二日間で今回のゴルフ トーナメントに賛同して参加してもらったゴルフファーは、この時、とばかり、はせ参じた地元西原村出身のゴルフファーを含め四百名近く、盛況をきわめた。



ゴルフ、トーナメントより

あっぱれ三連勝の内間チーム

第十一回 村青連 駅伝大会

スポーツシーズンの最後をかざる

第十回村青連駅伝大会が、めぐまれた駅伝日和の、十一月三日、文化の日に開催された。

同駅伝大会は、回を重ねること十回で、回を重ねるごとに増々、青年会員と村民の深い結びつきの機会として、村民多数から支持と期待がかけられている行事。

主催は村青年連合会で、この大会の目的は、会員相互の親睦と理解を深め同時にスポーツ振興に寄与する

ことがネライ。

午後一時半から開会式が行なわれ、大城村助役、親泊村議会議長、照屋中青協会長、宮平前西青連会長そして新川村社教主事、等諸先輩が列席し、青年会への激励を行なった。

玉城体育部長の説明の後前回優勝の内間チーム代表大城浩選手の力強い選手宣言が行なわれた。

今大会の参加チームは字青年会七チーム、各字高校生、西原中の生徒

及び教諭のオブザーバーチーム、六チームで計十三チームの優勝争い。

コザ高校前折り返しの約三〇、二キロメートル、六人の走者で継走。

特に今大会注目されたのは内間チームの三連勝成るか？の興味…。

喜納会長の手で、定刻二時に号砲

一発。

十三チームの第一走者が一斉に力強くスタート。長いレースの火ぶたが切られた。

三連勝のかかった内間チームは与

儀善信選手が力走し、トップで第二走者へ…。ところが第二区では対抗馬に数えられる上原チームの大城盛広選手が区間新の力走でトップを奪った。第二区に入っても上原チームは屋良朝雄選手の、これまた区間新の力走でトップを堅持。四区に入ると内間と上原の首位争いは増々白熱化。第五区に入って、とうとう内間チームはベテラン諸見里安広選手が区間新の力走で上原から首位を奪環。

第六区に入っても内間チームの健斗は続き、チームの声援を一身にあびながらアンカーの大城浩選手がトップを切った。

三連勝は成った。一方オプザバーの我謝高校チームの健斗が注目をあびた。終始トップを走り、大会のリードオフマンの役目を果たしたのは立派。

大会終了後五時から閉会式に移り成績発表、表彰と行なわれ、最後に来たる十一月二十四日、中青協主催で開催される第十二回中頭一周駅伝大会へ村代表として派遣する十五名の選手の発表と推載式が行なわれ、盛況のうちに閉会した。

喜納会長は「今大会は参加チームが少なかったのは残念だが、進行面その他の競技運営では多くの青年会員の積極的な協力が得えられ、最高のものだった」と大会の成功は、みんなの協力のたまものと手ばなしで喜んでた。

郡大会での村代表選手の健斗を村民、みんなで期待し応援しましょう。

▲成績 優勝：内間チーム 記録二時間四分三七秒。二位：上原チーム二時間六分二八秒。三位：棚原チーム二時間十七分十二秒。

(参考記録：我謝高校チーム、二時間四分二六秒)

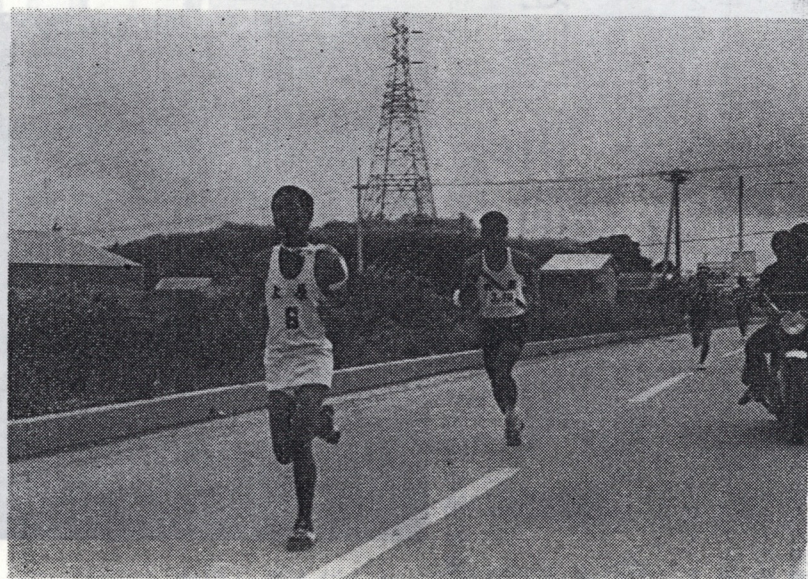
▲区間賞 (楢が宮平スポーツ店より贈呈)

一区：与儀善信(内間)、二八分四七秒、二区：大城盛広(上原)、十九分四九秒(新) 二区：屋良朝

雄(上原)、十四分三三秒(新)、四区：城間良信(内間)、二二分二九秒、五区：諸見里安広(内間)、十三分四秒(新)、六区：大城浩、二二分五六秒。

▲中頭郡大会派遣選手名
与儀善信(内間) 新垣進(内間)

城間良信(内間) 諸見里安広(内間)
大城浩(内間) 宮里正春(棚原)
宮城秀夫(棚原) 新垣茂夫与那城
上地恒正(我謝) 新垣隆夫(我謝)
大城盛正(上原) 大城盛広(上原)
屋良朝雄(上原) 安里昌一(上原)
安里昌繁(上原)



力走、力走、また力走

秋空に舞う

明治の青年達

町村老人クラブの積極的な参加のも行なわれました。

この大会の目的は、お年寄りがスポーツを通して、健康の保持と生きがい高め、同時に、老人スポーツの振興と社会活動への参加意欲を高めることにあります。

今年で二回目になる中部地区老人スポーツ大会が、気まぐれと言われる秋の天気にかかわらず、めぐまれた快晴のもと、去る十月二十日、午前十時から、沖縄市陸上競技場で開かれました。

昨年から始められたこの大会は、各県から注目され、昨年はテレビ(NHK)放映までされた程。

二回目を迎えた今年の大会は、よりいっそう、はなやかに、各市

主催は中部地区老人クラブ連合会と沖縄市、浦添市、宜野湾市、具志川市、石川市及び中頭郡老人福祉センター運営協議会で、本村はバス四

台に二二〇余人という多くの会員が参加しました。

競技場は二〇〇〇人余のお年寄りの方々でうめ尽くし、類のない盛り上がりを見せました。

盛大な開会式の後、個人種目の、ソフトボール投げ、二〇〇メートル競歩、五〇メートル競走、新婚旅行競走等が、笑いとスツコケ調子のうち行なわれ拍手がっさい。

団体種目では、今年も本村はお隣

りの浦添市とともに青組に属し、熱戦奮闘しました。

けつ庄測定リレーがあるかと思うと、ラケット競走。それが終るとモグラ競走、ドリブルリレー、ボール送り、玉入れ、等々、走ったり、ころんだり、けったり、大忙しの老人たち。また趣向を変えて全員で汗水節、老人クラブの歌等々に合わせて楽しい踊り、バラエティーに富んだめまぐるしい愉快な一日でした。



「ヤヤ、やりまな」ボール送りに奮闘中の西原村老人クラブ

して第一番目の目的地である青森県黒石市へ到着した。市役所入口には歓迎、沖縄県国内研修団・と横断幕があり、事前から綿密にその計画を立ててくださったのであらう何一つ手ぬかりがない。玄関へ入りホールへ着くや否や拍手の渦である。地元産のリンゴジュースをのみながら青年団、教育長、その他関係者方々の暖かいお言葉をいただき、研修参加の意識を改めて思い知らされたのである。

全体の歓迎式、黒石市紹介、産業等に関する質疑応答をおえ、各グループに分かれ本格的な交流に入る。私の属する第一班（スズラングループ）は浅瀬石区の団員に伴われ、民宿先の各家庭で夕食をとる。私は宮古から参加した下地洋子さんと高橋洋子さん宅に割りあてられる。いつも彼女とお母さん二人暮らしの静かな家が一度ににぎやかになったことだろう。名食は、みそ汁にご飯、なすの油揚げ、牛肉であろるか少しにがいお肉に自家製の漬物が三種（夕食後、漬け方を教わる）それに裏庭からとってきたという新鮮な野菜のサラダ、山国ならではの山菜料理が並び。「だいておてもてなしてもできませんが、ほんとうの青森をみてください」と案内してくれた彼女のやさしい心づかいが伺われる夕食会であった。女二人でリング作り。口に出していいない苦勞もあるだろう。彼女の家で教えてもらった、青森娘の歌、を口ずさんでは懐かしく想い出している。夕食をおえた私達は公民館へ集合、どの顔も満足そのものだ。時計が七時半を知らせる。公民館長挨拶、自己紹介と続き、情報交換等に入っている二時間半にわたる交換をおえ、その後、事務局長の北山さん方へ招待され午前三時まで語りあかす。父ちゃん母ちゃん、ばつちゃんも最後までおつきあいされたそうである。残念ながら女性車は十二時で失礼。男性だけ約二十数名、団活動のこと、農業問題のこと、結婚のことと次から次へと続きどうにもとまら

黒石青年団との

交流を終えて

城 間 藤 子

「ちんさぐぬ花や……懐かしいメロディが流れるここ青森県黒石市浅瀬石公民館である。予想していたほど肌の色もちがわないので安心し

たせいであらう。対面式から親しみを感じてならない交流会であった。昭和四十九年度青年国内研修団三九名は、沖縄を出発してから四日目に

なかったそうである。北国と南国の全く異なる地方の人間が、背をだし、そこそアクセントも一八〇度違うのであるから、お互い何を言っているのか通じあうのにたいへんだ。そのたびに通訳の人が出るほどである。が、しかし、それは皆同志、笑いをとばしている。カチャ、カチャ、よされ節とちゃんぽんのかくし芸もとび出した。その中でも八重山から参加した太田静男さんのトバラマーが何とも言えない。にぎやかだった家が急に静まりかえり、夜の岩木山まで響いていた。歌っている意味さえわからないはずだが。北山さんの家を失礼しようとした時、大きなリングをただ一個だけ持ってきて握手を求められた時のあの胸中を誰が知ろう。車に集ってからも「もう少しいいでねえか」と父ちゃんまで出ていらして止める始末。弁解するのに一苦勞「ほんとにありがとうございました。一生忘れません」とただ感謝の気持ちだけを述べるだけ、帰りたいくない心を無理に押え北山家を後にしたのである。

翌朝午前四時、隣りに寝ていた彼女が床を出て朝食の用意をしている。しばらくすると家中、みそ汁のにおいがたちこめる。と、スピーカーから元気な声が流れてきた。時計は五時を示している。とにかく朝が早い。またまたびっくり。裏庭にある小屋の中で洗面だ。水が冷たくてどうしようもない。骨がいたいとでも表現しておこうか。お母さん、あわてて出ていらしてお湯を使いなさいとおっしゃるが、せっかく北国まで来たのだから水が冷たいのはあたり前と我慢しておえる。朝食もおいしいよ高橋家ともお別れ。リングと洋なしをおみやげにいただし、お礼を何度しても言い足りないさを感じつつ市役所へむかった。

九時、全員が揃う。どの顔も少々睡眠不足気味であるが元氣そのもの。市役所のバスに乗り込んだ私達は、再び訪ねることができるとかどうかわからぬこの黒石市の地をこの

まま去ってしまうのがいやで、何でも手をふり、シャロムを歌い、次の目的地青森市へとむかう。途中、県立リング研究所、リング園、岩木山の見学を行う。その間、団員二十名余が、自家用車でついてきてくれたのである。リング研究所もさることながら、一面、リング畑の続く風景を幾度、夢にみたであろう。それが目の前に、現実となったのである。もぎとってしまうのがもったいなくて……。でも思いきって一個食べる。何とも言えない味だ。ほんとのリングの味だ。あまりのおいしさにあと一個たべる。甘ずっぱい味、沖縄のリングはほんものではない。この味を一生忘れないでおこう。そして、それに励んでいらつしやる彼らも。

ブラの木が美しい峠を越え、岩木山の頂上まで登る(残念ながらバスを利用)。最後のお別れ会が始まった。もう一生ないかもしれない一泊二日の交流会。こんなにもせつない気持ちになるうとは……。時間の都合もあり一応バスに乗ったのに矢もたてもたまらず、一人、二人と車外へ飛びだし輪になって踊り出したのである。先生、あと五分だけ、みんなで踊りの祭典が始まった。

「サー君は野中のいばらの花かサーユイユイ」一緒に踊る黒石団員の顔を忘れまいと一人一人のぞく。あまりの気持ちに自分の首に巻いていたスカーフを高橋さんの首に巻いてあげる。もつとこのままで居たいのに時間である。再びバスに乗りこんだ時、誰ともなく「ダンジュかりゆしや……」の歌が大合唱になった。

「さようなら、ほんとにありがとう。又、必ずあいましよう。」その言葉と同時に涙の流れるのをどうにも押えられない私達であった。そして、バスが見えなくなるまで、団員の車が見えなくなるまで、お互いに手をふり、窓から首を出し、大きな声で叫んでいた若者達の姿が、今、はつきり見える。まるで「どうぞ夢でありませんように」と願っている

かのように。

知らぬ同志が、ある二つのことにより、言葉をかわし、挨拶をかわし、知りあいになり、助けあうことが、こんなにも人間らしさと呼びもどしてくれるとは、ついぞ知らなかった私である。



告知板

予防接種への案内

▲ポリオ投与：十二月八日、午前九時から十二時まで。対象は生後三カ月から二才以下の幼児。

▲種痘二期・三期：十二月十五日、午前九時から十二時まで。対象は小学校入学前六カ月までの幼児。判定は十二月十九日。

▲種痘再接種：十二月十九日、午前九時から十二時。対象は前回の二期で種痘しなかった、小学校入学前六カ月までの幼児。

判定は十二月二十三日。

